

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370103453		
法人名	夕凧会		
事業所名	グループホーム 夕凧の家		
所在地	岡山市 東区 宿毛745-3		
自己評価作成日	平成25年 2月 18日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利法人 高齢者・障害者生活支援センター		
所在地	岡山市北区松尾209-1		
訪問調査日	平成25年3月1日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ケアハウスの4階にある事から、桃畑や桜など季節感あふれる風景が全室から望めます。開放的で明るいホーム内で、のんびりゆったり一緒に楽しくをモットーに、入居者一人ひとりの思いを大切に支援させていただきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

フロアには絵手紙等が張られ、文部科学省唱歌が流れ、お雛様ムードが漂い利用者の皆さんもメロディーを口づさみ、体でリズムを取り笑顔で過ごされていました。職員も一緒に過ごす中で観察、洞察を怠らず向き合う姿勢が窺えました。失禁予防運動等やその人らしさを大切にした支援で自立した利用者の方もおられ退所されました(他施設で認知症が進み)再び、Uターンされ暖かく見守りながら支援されています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所内に掲示して、いつでも確認できるようにし、実践につなげる努力をしている。	職員全員が理念を確認し、その人らしく暮らせるようまた、入居者一人ひとりの気持ちを大切に支援に取り組んでいます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	夕凧会全体行事として夏祭りがあり、地域の草取りなどを行っている。地域からもボランティアの方や保育園児の来所があり、歌や踊りを披露して下さる。	地域の一員として草取りに参加したり、ボランティア、保育園児の来所があったりまた、入居者が地域の行事に参加するなど交流に努めています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域からの実習生をうけ、理解や支援の方法を伝えている。入居者は地域に出かけ周りの人々との交流を楽しむことができるようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	日頃の活動や取り組みなどを報告し、話し合いから得た意見をサービス向上の為に生かせる様努力している。	地域包括の職員・家族などの参加により運営推進会議を開催し、意見をサービスに活かせるよう努力されています。	家族から年6回の参加は無理といった意見もあったようですが、2ヶ月に1回出来る事から取り組まれ少人数でも開催されるよう期待しています。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者から、業務や法令、困難な事例について問い合わせしアドバイスを頂いてケアサービスに生かすように努めている。	困難なケースは、一緒に取り組み指導をいただくなど協力関係を築くよう取り組んでいます(昨年は成年後見人制度について書類等の指導を受けるなど)。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員の見守りが薄い時のみ玄関を施錠をさせていただいている。	勉強会で身体拘束してはいけない、ケアの取り組みがなされています、テレビ報道、新聞記事も取り上げ話し合い職員は理解されています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内の虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	テレビ、新聞などでの情報から、話題にし虐待防止ハンドブックなどで確認し認識を深めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用されている入居者が入所されており、勉強する機会があり活用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用契約の締結時には十分な時間をかけ、利用者やご家族の理解、納得の得られるような説明に努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	お手紙や面会時に意見要望等の有無をお聞きし、あればすぐに日誌に書き留め送り、職員会議で話し合うようにしている。	ご家族の訪問時には意見要望を聞いて迅速にケアに取り入れ、その場で出来ることは即実践しより良いケアを目指しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	GH職員会議やいつの時でも意見の言える雰囲気作りが出来ている。良いと思った意見は迅速にケアに取り入れている。	月1回のミーティング時など、管理者は意見をしっかり傾聴し、現況に即した提案・要望など迅速にケアに取り入れ反映させています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	十分配慮されている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	希望する外部研修や内部研修が確保されている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホーム連絡会があり、相互訪問や勉強会の機会がある。得た知識をサービスの質の向上に生かすよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	生活史や人格、趣味など情報収集し入所されてからは、傾聴共感に努め、不安を取り除き穏やかに過ごして頂ける様努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	不安や要望などお聞きし、しっかりとケアプランに生かし、安心信頼を得られるよう努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族にとって今一番必要な支援は何かを見極め、真摯に対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人が何が出来るか、どう支援すれば出来るかを全職員で話し合い、共同生活が豊かになるよう努力している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族、ご本人の意思を尊重し、絆を大切にお守りしながら支援させていただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人知人の電話や来訪があり、馴染みの関係が途切れないよう支援に努めている。	指導して下さる方々、絵手紙、木彫り、昔の友人などとの交流もなされています。フロアには絵手紙が飾られなごやかな雰囲気です。下の階のケアハウスとの交流もあり持続的な見守りを大切にされています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	菜園活動、食事、洗濯、レクなど共同生活を通じて、一人ひとりが孤立することなく随所で関わりあい支え合えるよう支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了した家族であっても、併設の施設に訪問したり、絵手紙で近況を知らせてくださるご家族もおり関係性を大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	傾聴共感による寄り添いケアにより一人ひとりの思いを引出し、カンファレンスで検討、本人本位の支援ができるよう努力している。	日々の関わりの中で、その人の一つひとつの言葉ことばを上手に引き出し、家族との会話や昔の写真を見ながら生活歴の中から見えてくるその人らしい暮らしの支援に努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの生活歴や生活環境などを把握し、以前の生活と大きく変わることはない様努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタルチェック、毎食事の残量、介護日誌の送り、ご本人との会話や表情などから、現状の把握に努め、本人の意に添った支援に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族、主治医の意見を取り入れ、全職員で会議し、現状に即した介護計画を作成するよう努力している。	日々接している職員の意見を大切に、利用者・ご家族・主治医の意見を聴き、職員会議での意見交換やモニタリング・カンファレンスなどで現状に添った介護計画に取り組んでいます。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	わずかな変化の気づきも大切に申し送り、職員間で情報を共有し介護計画の見直しにつなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族のあらゆる状況から生まれるニーズに対して、柔軟に真摯に対応できるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行事や外出等可能な範囲で地域との関わりが持てるよう支援に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族、かかりつけ医と事業所の良い関係を保ち、連絡を密に取りながら、適切な医療が受けられるよう努めている。	道路を隔ててかかりつけ医があり、良い関係が築かれています。通院等の対応も家族により充分になされており、歯科も近く、精神クリニックのDrが月2回の訪問をされています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ケアハウス棟の看護師による感染症予防の指導や、急な受診時の相談などで協力体制ができています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院のカンファレンスに参加したり、ご家族と相談させていただき早期に退院できるよう関係づくりに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族や主治医と十分に話し合い、事業所として出来るところまで精一杯対応したい。	家族と重度化や終末期に向けてしっかりと話し合いながら日々のケアで嚥下困難・咀嚼力の低下などについて重度化への予防など、ホームとして出来る事を説明し、緊急対応には万が一に備え日々勉強されています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変や事故発生時に備えて、職員は順に救命救急研修を受けている。職員会議などで急変時の対応を話し合っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、昼夜を想定して避難訓練を行っている。災害時にはこの建物が地域の避難場所となる。	非常時災害対策マニュアル、自主的な点検、自衛消防隊編成、防災教育基礎訓練、非常食の備蓄、また、消火、通報、避難等年2回昼夜を想定し利用者と一緒に実施している(消防署の指導により避難路の確認、消化器等の使い方の訓練をしています)。	建物が地域の避難場所になっているとのこと、避難訓練等住民の参加を得ながらの実施はどのようにでしょうか。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	否定や説得をせず、笑顔での傾聴共感に努めている。プライバシーに配慮した言葉かけや対応ができるよう努力している。	個人の尊重、人生の先輩である利用者に笑顔での傾聴、気持ちのこもった言葉掛け等、理念に添った対応で目配り、気配りがなされていました。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	拒否も含めて、表情やしぐさ、会話などから現れる思いを尊重した支援に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入所以前の暮らしと大きく変わる事のないように、一人ひとりのペースを大切に支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の要望により、職員が毛染めを行ったり、好みの服をきたりとその人らしい身だしなみやおしゃれが出来るよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と一緒に準備や片付けをしたり、通院して入れ歯の調整をする等、食事が楽しみなものになる様支援している。	元気で食事を楽しんでもらえるよう支援している。準備や片付けを職員と一緒に行き、利用者の笑顔が見られました。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の習慣を考慮した上で、主治医、看護師、栄養士の意見を参考にし支援に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内のトラブルをなくし、一日をさわやかに過ごして頂ける様支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを把握し、声掛けや誘導にて自立に向けた支援を行っている。	失禁防止のリハビリ体操を毎日実施し日中は布パンツ、夜間は紙パンツに移行するなど成果が出ています。日中は一人ひとりの排泄パターンを把握し、さりげない誘導で失禁ゼロを目差し取り組んでいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘に効く飲食物を食事に取り入れたり、運動への働きかけや主治医の指示のもと、下剤の服用を含め適切に排泄が出来る様取り組みを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴を楽しみになって頂ける様柔軟な支援に努めている。	お風呂大好きな人・湯船から出たがらない人や入浴を拒む人など、一人ひとりにあわせた柔軟な対応(言葉掛けや、タイミングなど)で入浴支援に努めています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後の自由時間や就寝のタイミングなど、一人ひとりのペースを尊重した支援に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の薬についての質問には、誠意をもって対応し、服薬後変化が見られれば主治医に報告し、指示を仰ぐようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お手伝い、レクリエーション、外出、祝日の行事や食事、地域との交流などから、一人ひとりが張り合いや喜びが見いだせる様な支援に努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	地域周辺に2か月に1回、皆で外出している。家族と協力し自宅への外泊の支援も行っている。行きたい所の支援については今後の取り組みとしたい。	GHホーム周辺で季節に応じた外出を楽しむ事ができ、梅の花、桃の花、野菜畑、秋の実りなどまた、家族の協力で外泊支援もされています。	閉じこもりがちにならない様、日々の様子(天気・気温・体調)を見ながら気分転換に日常的な外出支援に期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理を行う利用者がいない為事務所で行っている。希望、要望にはお答えしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも電話や手紙のやりとりが出来る様支援に努めている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	開放的で明るく安全、季節感あふれる空間づくりをし、居心地よく過ごせるよう工夫している。	I字型フロアは自由に動き回れることが出来、南側の窓からは季節の匂いがいっぱいそそぎ込み、利用者が作った作品も飾られ、暖かみのある空間造りがなされています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとり居心地の良い場所、お気に入りの場所で自由な時間を過ごしたり、気の合う入居者同士触れ合える様支援に努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者や家族の意見要望を取り入れ、安全性を考慮した上で、居心地の良い居室づくりが出来る様に努めている。	利用者、家族の希望に添って安全を考慮しながら、以前から使用していた思い出の品を持ち込み一人ひとり居心地の良さに配慮した居室づくりがされています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりや大きな目印、バリアフリーなど、安全で出来るだけ自立した生活が送れるよう工夫している。		